

頂点への挑戦～太陽に負けないあつい思い出を～

これは各学級からの意見を吸い上げ、代表委員会で決定した今年の運動会のテーマ。「みんなと競い合い、励まし合いながら優勝を目指してがんばるぞ!」という思いと、その中で最後には太陽に負けないくらいあつい思い出にしたいいたいという思い」を込めているそうです。この情熱的なテーマのもと、子どもそして教職員も共に運動会に向けて気持ちを高め、練習に励んでいます。運動会を「学級・学年・そして学校としての1学期の成果」として見てもらおうという思いから、秋開催に固定して4年目。今年は秋雨前線による長雨で外練習のタイミングにやきもきしながらの毎日です。また来週からは残暑のなか、日陰を利用したり、ミストシャワーを設置したりするなど対策をしながら取組となりそうです。低・中・高学年の表現運動のほか、例年通り6年生の親子種目、そして保護者や地域の皆様と共に楽しむ橋本音頭もあります。

学校行事の中で子どもはその都度大きく成長します。運動会も子どもが成長する大切な機会です。身体を使う運動面はもとより、少し難しいことに勇気をもって挑戦したり、繰り返し練習することで苦手なことができるようになったり、友だちと励まし合ったり、競い合ったり、いい声掛けができたりと、精神面やコミュニケーション面でも大きな「成長」があります。教職員は子どもの「伸びしろ」を十分引き出せるよう、細部にわたる準備をし、環境を整え、励ましや褒める言葉かけを心がけ、活動に向き合おうとする姿を応援しています。また当日の勝敗や活躍はもちろんですが、取組の過程を大事にしています。子どものそして私たちの心にも、あつい思い出として残る運動会になれば最高です。ご家庭でもお子様との会話を大切に、たくさん褒め、また励ましてあげてくださいね。◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆



♡♡♡♡♡「うちどく」ご協力ありがとうございました♡♡♡♡♡

夏休みの課題として毎年協力いただいている「うちどく(家読)」。

お子様と一緒に読書を楽しんでいただきありがとうございます。今回も学校司書が、廊下の階段に表紙写真と共に紹介しています。また図書室や廊下には「おすすめ本」をたくさん用意し、配置しています。学校にお越しの際は、掲示はもちろん、本も手に取ってご覧ください。ね



♡♡♡エプロン先生お世話になります♡♡♡

9月下旬から、6年生の家庭科「ナップザック制作」のミシン指導等でエプロン先生の皆様にお世話になります。もう、毎年の恒例となっています。ミシンを使っの制作は昨年のエプロン制作に続き2度目ですが、操作に慣れているわけではなく、支援していただくことでとてもスムーズな作業につながります。本当にありがとうございます。修学旅行で使用するナップザック、完成が楽しみです。

◇◇◇◇◇◇◇◇ | 学期の締めくくり ◇◇◇◇◇◇◇◇

早いもので1学期の締めくくりの時期を迎えています。運動会後は各学級で1学期のまとめと振り返りの取組を行います。「学習面」だけではなく、本校の職員が研究部会で取り組んでいる「学級力」「生活力」の観点から、それぞれがまた学級がどうであったのかをまとめ、振り返り、2学期につなげていきます。短いスパンで今の自分がどうであるかを客観的に振り返ることで、自分の成長を実感できるうえ、次なる目標も定めやすく、励みにもなります。

「生活力」につきましては、保護者の皆様と協力し合いながら実施することも大切ですので、今後の取組に関しましてご理解ご協力をよろしくお願いします。また、これらのことも含め、1学期の子どもの成長を認め褒め、締めくくりを意識できるようなお声掛けをお願いします。

『学習指導要領』について 評価の時期でもあるので紹介します。

『学習指導要領』とは、文部科学省が全国どの学校でも一定の教育水準を保てるように定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。これを基にして教科書や時間割が作られています。現在の学習指導要領には「これからの社会がどんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を共に創ってほしい。」という願いが込められています。学校で学んだことが明日、そして将来につながるように子どもの学びをさらに進化させ、新しい時代に必要となる**3つの資質・能力の育成**を目指しています。その3つとは、

○学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養。

○実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」の習得。

○未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成。

学校ではこれらの育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」となるような授業改善と、教育活動の質を向上させるための「カリキュラムマネジメント」を2つの軸とし、取組を進めています。

育成すべき資質・能力の三つの柱

学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理。

